

環【：wa】

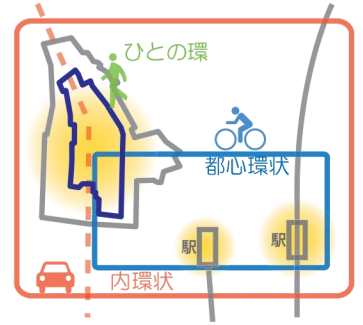
まち動き出す

「車（自転車）、まち、人」が動き出すことで、小幡・清住地区のにぎわいが持続していくことを活性化と捉え、3つの環状のネットワーク（環【：wa】）の整備をテーマにそれぞれの要素が動き出すまちづくりの提案を行う。

■「宇都宮都心環状線」・・・交通の環【：wa】

小幡・清住地区と宇都宮中心市街地を車、自転車で結ぶことで新たな活性化が生まれる。

交通のネットワークを再構築することで、渋滞などの緩和による都市問題の解決が行われ、地区内では通過交通としての車、自転車の動きをまちに取り込む都市拠点を整備し、まちの活性化につなげる。

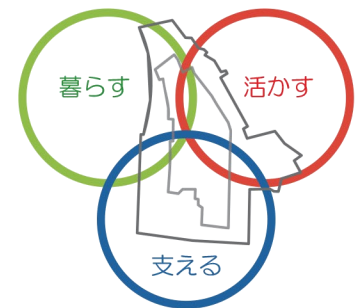


■「懐かしき未来のまち 小幡・清住」・・・まちの環【：wa】

宇都宮都心環状線の整備により、小幡・清住地区は、大きく3つのエリアの特性に分かれる。

西側の密集住宅エリアを「暮らすエリア」、東側の歴史的・文化的資源と商店機能が残るエリアを「活かすエリア」、南側の都市機能が発達する可能性が高いエリアを「支えるエリア」として位置付け、再整備する。

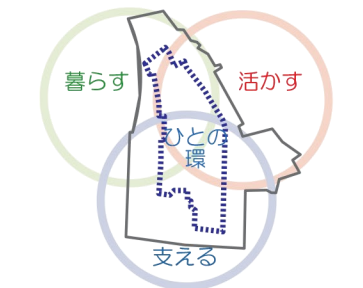
現在まで、あいまいであったエリアの特性を活かし、それぞれを強化することで相互、補完関係を再構築し、ネットワーク化していく。



■「小幡・清住コミュニティ環状」・・・ひとの環【：wa】

密集住宅エリア内の未接道問題や、宇都宮都心環状線による分断の問題などを解決し、地区内で高齢者や子供たちがコンパクトに安心、安全に暮らせるように小幡・清住コミュニティ環状を整備する。

暮らす人の歩行空間の繋がりの整備を第一に考え、今後新たに生まれていく清住町通りからの来訪者の歩行空間の繋がりの住み分けを行い、地区内での混乱が起きないように適切な整備を段階的に行う。



□ 小幡・清住地区の活性化のプロセス

小幡・清住地区の江戸時代から残る地割りや文化、戦火を免れた歴史的資源を活性化の分子と捉え、「交通の環」、「まちの環」、「ひとの環」の再構築により持続的な活性化が行われ、まち全体がコンパクトに適切なスケールとデザインルールで動きつづけることを提案する。